

原発がこわい女たちの会
http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

◀ 2015年04月 | トップ | 2015年06月 ▶

検索

2015年05月29日(金)

 検索

中嶋哲演さん講演会のお知らせ

アーカイブ

「脱原発わかやま」では、中嶋哲演(なかじまつえん)さんをむかえて市民公開講演会を行います。

周知のように、福井県若狭地方は、敦賀、美浜、大飯、高浜の原発群、加えて高速増殖炉もんじゅ、新型転換炉ふげん(廃止)をかかえる「原発銀座」です。過去40年余り、発電された電力は高圧電線で関西圏に送られてきました。大阪をはじめ経済至上主義の現代都市文明を支えてきたのが若狭の原発群とってよいのです。

しかし、「いずれの1基たりとも、地元住民や原発反対福井県民会議などの疑問や批判、反対運動なしに建設されたものはない」(岩波ブックレット『動かすな、原発。』より)のです。小浜市をはじめ福井県内外の反原発運動の中核を担ってこられた中嶋哲演さんから、原発現地の視点で福井地裁の大飯原発判決および高浜原発仮処分決定のもつ意味とこれからの活かし方をお聞きしたいと思います。

詳細については以下のとおり(チラシより引用)です。

市民公開講演会

福井地裁の勝訴判決 & 仮処分決定とこれから

「福井から原発を止める裁判の会」代表・住職
中嶋哲演 氏

2015年 6/21(日) 13:30~15:30
田辺市民総合センター(2階青少年ホール)
(田辺市高雄1~23~1 電話0739-26-4900)

参加無料
【主催】 脱原発わかやま
(連絡先) 和歌山市 松浦(073-451-5960) 田辺市 寺井(0739-25-5586)

講師 プロフィール

小浜市真言宗明通寺住職。
15基の原発のある福井県内で、一貫して原発を拒否してきた小浜市の中心で活動してきた一人。1971年「原発設置反対小浜市民の会」を結成し事務局長へ。93年「原子力行政を問い直す宗教者の会」結成に参加。「福井から原発を止める裁判の会」代表。
著書『原発銀座・若狭から：スリーマイル・チェルノブイリ・そして日本…』(1988年)共著『いのちか原発か』(2012年)、共著『原発ゼロをあきらめない』、共著『動かすな、原発。——大飯原発地裁判決からの出発』(2014年)ほか。

「大飯原発3、4号機を運転してはならない」。2014年5月21日、福井地裁は判決でこう命じました。続いて、2015年4月14日、同福井地裁は高浜原発3・4号機の運転差し止めを命じました。これはわが国の歴史において、初めて司法が原発を止めた点で画期的でした。
3・11福島原発事故の教訓から何をまなぶべきなのか。これからの原子力行政はどうあるべきなのか。長年、福井県において原発を拒否する運動にかかわってこられ、上記裁判の原告団長として再稼働阻止に尽力されてきた中嶋哲演氏を招き、学びたいと思います。どなたでも参加できますので、どうぞお越し下さい。

別件お知らせ

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

先日の佐藤栄佐久氏講演録を、小谷英治さんがYOU TUBE にUPしてくださいました。
以下で視聴することができます。
<https://www.youtube.com/watch?v=ssZPLw2nlc8>

DVDもありますので、ご希望の方は松浦(073-451-5960)までご連絡ください。
(SORA)

- 2012年09月(2)
- 2012年08月(2)
- 2012年07月(4)
- 2012年06月(4)
- 2012年05月(3)
- 2012年04月(1)
- 2012年03月(1)

最新コメント

- [日韓の原発事情、国 by 民守 正義(08/21)
- そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
- コメントありがとう by sora(12/05)
- 突然すみません。東京 by 里美(11/22)
- 10/26と11/29のチケット by 角谷(10/23)
- starさんコメントあり by sora(09/14)
- このブログを読むまで by star(09/13)
- こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
- 現在稼働している大飯 by star(04/09)
- 廃炉産業を起こしてほ by kaziwarayosiyuki(03/14)

2015-05-29 | 記事へ | コメント(0)

2015年05月23日(土)

女たちの会主催で佐藤栄佐久氏講演会

5月10日、元福島県知事・佐藤栄佐久さんの講演会が盛会裏に終了しました。実のところ、チケットの売れ行きが芳しくなかったのを気もんでいたのですが、会場(153席)が満席になるほど大勢の方に参加いただいくことができ、まずはよかったです。



「原発がこわい女たちの会結成28年のつどい」に佐藤栄佐久さんをお呼びしようと考えたのは、次のようなことからでした。



チェルノブイリ原発事故後、和歌山の原発を止めたいとの思いで本会を結成し28年が経過したのですが、私たちは、4年前、福島の事故を経験し、その未曾有の事故にこれから長時間、向き合わざるを得なくなりました。そして、18年間福島県知事の座にあった佐藤さん。初めから原発に反対していた訳ではなかった人が、県民の立場に立って国や電力会社に対峙し、2006年に逮捕され、収賄額ゼロと云う前代未聞の収賄罪で有罪になりました(2012年)。

何故抹殺されたのかも含めて、佐藤さんの考え方と実践を一人でも多くの人に知って貰うと共に、私たちのこれからの活動にいかしたいと考えました。

当日の講演では、長い政治活動の豊富な経験を包括的にお話しいただきました。まず、知事になる前に日本の民主主義があぶないと思った、それは、私の尊敬する知事さんたちがコロコロと取り替えられた事です、との話から始められました。地方の論理として、政治家にとって不可欠なものは哲学・理念であり政策施策個々の事業にそれが貫徹すること、政治理念のない政治家などいらないと喝破して、複数主義(プルーラリズム)と政治のベクトルという氏の2つの政治理念を語られました。

非効率であっても集中を排し地域の個性を尊重する、政治のベクトルを現状とは真逆の<住民⇒市町村⇒県⇒国>へと変える、ということです。例えば「平成の大合併」の際にも福島県では住民600名の村を残したこと、道州制に反対し全国の知事会で導入を潰したことなどがそれです。

カレンダー

<	2015年05月							>
日	月	火	水	木	金	土		
						1	2	
3	4	5	6	7	8	9		
10	11	12	13	14	15	16		
17	18	19	20	21	22	23		
24	25	26	27	28	29	30		
31								

最新記事

- 琵琶湖が危ない 老朽原発美浜3号も廃炉に！ 11・13琵琶湖集会(11/15)
- 汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)
- 原発がこわい女たちの会 ニュース99号発行(10/12)
- 高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)
- 老朽原発・美浜3号機は廃炉に！パブコメを出そう(08/28)
- ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)
- 熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)
- 老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)
- 原発のない社会を投票で示そう！(07/05)

そのためには地方の首長は、国の言うがままではなく自分の頭で判断することが前提であって、地方自治体を力ずくでも国策に従わせるという霞ヶ関官僚たちとの交戦も必要となるのでしよう。

講演のテーマである原発問題についてもまったく同根・同質です。住民の安全と安心を守るためには、この<国⇒県⇒市町村⇒住民>という情報伝達の流れを変えていかないといけないということです。

知事就任直後1989年に起きた福島第2原発3号機の事故に直面したとき、東電からの情報伝達の順序が逆転していることに気づいたそうです。冷却水ポンプが外れて30kgもの部品が原子炉内に落下するという重大事故でしたが、最も影響を受ける地元へ伝えられたのは、国、県の後で1週間もたってからのこと。

同時にこの事故で、国や東電の隠ぺい体質に気づかせられたといえます。「**原発には事故があるのだ**」という認識、つまり「安全神話」から解かれたときに、「都合の悪いことを隠そう」とする原子カムラの体質もみえてくるのでしよう。

スリーマイル島、チェルノブイリをはじめ、国内でも福井の高速増殖炉もんじゅで、東海村JCOで、美浜で、柏崎刈羽で…死傷者が出る原発事故は枚挙にいとまがないほど起きたし、トラブル隠しにデータ改ざん、内部告発の不当な扱い、県からの申入れを無視・反故。どれもこれも原発への懐疑心、東電と国への不信感を増幅するものでした。

佐藤さんは、立地県知事として原発問題に真摯に向き合い、徹底的に闘いました。

県民主体で原子力を考えるため、「福島県エネルギー政策検討会」を立ち上げて小冊子「あなたはどうか考えますか？～日本のエネルギー政策」にまとめ(2001年)、情報公開。(対抗するかのようにエネルギー庁が「プルサーマルと原子力安全」を双葉郡内全戸に配布)県庁内の勉強会「核燃料サイクル懇話会」を設置し、県主催の国際シンポジウム「核燃料サイクルを考える」を東京で開催、原子力学会や原子力委員会での発言、など情報発信を縦横無尽に行ってきました。

とりわけ、核燃料サイクルについては当初から強い危惧を持ち続けてきました。プルサーマルは国策だからやむなし、と東電に対しいったんは実施の事前了解を与えていたが(1998年)、MOX燃料データ改ざんなどが明るみにでたため、2001年受入れを撤回。これは結局、後任の佐藤雄平知事のもとで受入れ、2010年福島第1原発3号機で発電開始となりましたが。

注:核燃料サイクル

使用済み核燃料の再処理により抽出されるプルトニウムを、ウランと混ぜてMOX燃料として原発で消費・再利用するのがプルサーマル発電である。危険性が大きいことから導入実績は進んでいない。核燃料サイクルという原子力政策の基本的な方向変更を国民の幅広い合意形成をはからぬまま、1997年「プルサーマル計画の積極的推進」が閣議決定された。

地方行政のトップとして粉骨砕身の歳月をバックグラウンドに、話したいことが続々と山ほど、おありだったと思います。最後の話を「地方の論理」の共生の話で締めくくられました。事故後、飯館村ではイノシシとブタの「共生」でイノブタが生まれている写真を見せながら、自然界はこのような共生だが、福島原発事故後、人と人の世代間の共生を損なってしまった、**原発は共生出来ない**、と訴えられました。佐藤さんが培ってきた地方の論理が原発事故により破壊されたことに一番傷ついているのは佐藤栄佐久氏本人だろうと思いました。

これは、どこかに書いておられたご自身の言葉だが、「ドン・キホーテが風車に向かってたたかっているようなもの」。…とすると、全国には大小さまざまな「ドン・キホーテ」がいてもいいし、いるだろうと思います。



【最後に、当日配付の佐藤栄佐久氏著書リストの中から、主なものをはりつけておきます】

◆ **日本劣化の正体—抹殺知事が最後の告発で明かす**(ビジネス社) 2015/3/19

原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ
記事の投稿
管理
RSS
ログアウト

BLOGariは2017年1月末
サービス終了します

佐藤 栄佐久 (著)

一言でいうと、日本はこと原子力政策に関するかぎり、とうてい民主主義国家とは言えない。日本は「原子力帝国」なのである。そしてその植民地は原発の立地する全国の過疎地である。それは米国基地の七割以上が集中する沖縄の構造とまったく同じだ。政治家の「地元の声が大切だ」という言葉はパフォーマンスにすぎない。原発推進は国策であり、反対の民意は基本的に無視される。川内原発の再稼働は、事故後鳴りを潜めていた原子カラムが本格的に復活したことを意味する」(はじめに より)

◆ **知事抹殺**—つくられた福島県汚職事件 (平凡社) 2009/9/10

佐藤 栄佐久 (著)

東京一極集中に異議を唱え、原発問題、道州制などに関して政府の方針と真っ向から対立、「闘う知事」として名を馳せ、県内で圧倒的支持を得た。第五期一八年目の二〇〇六年九月、県発注のダム工事をめぐる汚職事件で追及を受け、知事辞職、その後逮捕される。〇八年八月、第一審で有罪判決を受けるが、控訴。(「BOOK」データベースより)

◆ **福島原発の真実** (平凡社新書) 2011/6/23

佐藤 栄佐久 (著)

日々、深刻の度を深める福島原発事故。洪水のように溢れかえる情報の中で人は一体何を信じたらよいのか。原子炉運転停止、プルサーマル凍結、核燃料税をめぐる攻防…。国が操る「原発全体主義政策」の病根を知り尽くした前知事がそのすべてを告発する。(「BOOK」データベースより)

◆ **地方の論理** —フクシマから考える日本の未来(青土社) 2012/3/14

佐藤 栄佐久 (著)、開沼博 (著)

前福島県知事と気鋭の社会学者が、これからの「日本」について徹底討議する。あらゆる「中央の論理」から自立し、「地方」だからこそ可能な未来を展望し、道州制から環境問題、地域格差まで、3・11以後の社会のありかたを考えるいま必読の書。(「BOOK」データベースより)

開沼 博:1984年福島県いわき市生まれ。東京大学大学院修了。専攻は社会学。著書『「フクシマ」論』(青土社、2011年)

◆ **この国はどこで間違えたのか** —沖縄と福島から見た日本 (徳間書店) 2012/11/21

内田樹、小熊英二、開沼博、佐藤 栄佐久、佐野真一、清水修二、広井良典、辺見庸

原発事故、オスプレイ配備、米軍基地問題、地方の犠牲—。今こそ問い直そう。ニッポンが沈没してしまう前に。(「BOOK」データベースより)

インタビューという形での編集 インタビュアーは沖縄タイムスの渡辺豪氏

(松浦雅代 & sora)

2015-05-23 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

RSS 2.0